

授業と学校生活 その両面を子ども たちに『委ねる』学校づくりの挑戦

「自ら学ぶ姿」は、どうすれば生まれるのだろうか。その問いから始まった南小の取組のキーワードは『委ねる』でした。子どもたちに学びの主導権を委ねてみようという挑戦です。最初は、私たちの中に戸惑いや迷いもありました。しかし、共同研究者の伏木先生は「先生方が思っている以上に子どもたちには力があります。授業の前に、まずは学校生活の中で子どもに委ねてみてはどうですか」と助言をしてくださり、先ずはやってみようと歩み始めました。

初めに校長先生から「皆さんが学校の主人公です。先生方はこれから、みなさんに『委ねる』ことをしていきます」と全校児童に伝え、挑戦が始まりました。生活のルール作りや行事など、委ねたことで子どもたちが言葉を交わし合って考えようとする姿が多く見られるようになりました。また、学習でも、委ねたことで、子どもが学びに向かう姿が向上しつつあります。そして、それらの姿から学びを委ねる上で大切にしたいことが見えてきました。それは、1時間ではなく単元全体をデザインし、どの場面をどのように委ねるかを意識することです。その中で「単元の見通しを示すこと」「追究に向かうエネルギーになりうる単元の導入をすること」などの大切さが見えてきました。

挑戦し歩み始めた私たちの取組について、一緒に学び合えることを楽しみにしています。



共同研究者 伏木先生から

豊科南小の児童会代表の子どもたちと昼休みに対談する機会をいただいた時、学校行事や日常の授業に対して、びっくりするほど建設的な意見を聴くことができました。職員研修でこの事実をお伝えしたら、先生方がこれまでの“当たり前”を見直し始めました。「子どもに委ねる」とは放任ではなく一人ひとりの子どもが主体的に学ぶ力を育むための積極的な手立てだと思います。



～日 程～

- ① 受付 12:30～12:45
- ② 開会行事、研究発表 12:50～13:25
- ③ 公開授業① 13:30～14:15
- ④ 公開授業② 14:20～15:05
- ⑤ 授業者と語る会 15:15～15:45
- ⑥ 座談会 15:50～16:30
- ⑦ 閉会行事 16:30～16:40